

# 目 次

はしがき

はじめに ..... I

## 第 1 章 国家を組み込んだゲームのルール確立の軌跡 ..... 5

### I 導 入 5

### II 受益者主導による統一私法条約の起草 8

1 条約形式による私法統一の特徴と問題点 9

2 経路からの離脱：受益者の組織化 12

3 集団的な (collective) 交渉テーブルの創出：二元構造の採用 15

### III 私的実行を中核とする担保制度の建設 18

1 国際担保権の私的実行方法 20

(1) 担保権者に認められる私的実行方法 (2) コモンロー由来の配当方式

2 権利関係の可視化：国際登録簿の設置 22

(1) 国際登録簿の情報集約力 (2) 国際登録簿へのアクセス権 (3) 国際登録簿の不可侵性

3 実行手続の円滑化 30

(1) 倒産局面を規律するハードルール (2) IDERA 記録制度 (3) 暫定的救済に関するデッドライン

### IV 国家との駆け引き 34

1 国家の支持を引き出すための方策とその効果 35

2 締約国検索サービス 38

3 ケープタウン条約割引制度 39

(1) 概 要 (2) リストの更新

### V 結 語 43

第 <b>2</b> 章 公示・対抗制度統一の現状	45
I 導入	45
II 1948年ジュネーブ条約の概要と意義	46
1 モデルの設定	47
2 概要	50
3 意義	53
(1) 所在地法主義からの離脱 (2) 公示方法の統一 (3) 先取特権に対する制約	
III 1948年ジュネーブ条約をめぐる諸問題	59
1 実質規定の問題点	60
(1) エンジンの法的地位 (2) 私的実行へのクビキ	
2 抵触法的構造の限界	64
(1) 外国法の調査費用 (2) 準拠法モザイク	
3 外部化された課題	68
(1) 国内登録制度の非効率 (2) 条約適用の空白地帯	
IV 2001年ケープタウン条約・航空機議定書による実質法統一	70
1 単一法システムの構想	70
(1) 新たな担保権概念の創出 (2) 国際性要件の撤廃 (3) エンジンの独立	
2 国際登録システム	78
(1) 登録と配役、料金 (2) 被担保債権額または極度額の非開示 (3) 信託との親和性	
3 対抗問題の一元的解決	85
(1) 売買 (2) 譲渡 (3) 平穏占有権	
V 結語	91
第 <b>3</b> 章 統一担保制度誕生までの葛藤と和解の力学	95
I 導入	95
II 基本設定	99
1 航空機担保権の実行	101

2	航空機ファイナンス	102
3	条約の採択と批准	104
Ⅲ	産業界の要望を満たすための方策	108
1	産業団体の参画	108
2	二元構造	109
3	信義則の不採用とオフィシャル・コメンタリーの作成	110
4	私的自治の応用	113
5	モデルに基づく考察	114
Ⅳ	国家の支持を引き出すための方策	115
1	対象物件の限定	115
2	宣言システム	116
3	モデルに基づく考察	119
Ⅴ	結語	120

## 第4章 自律的メタ秩序による信用創出のダイナミックス……122

Ⅰ	導入	122
Ⅱ	航空機ファイナンスをめぐる法的・政治的課題と ケープタウン条約	128
1	法の多様性	128
2	法の内容	129
3	機会主義リスク	130
Ⅲ	基本モデル	131
1	融資契約	132
2	時間非整合性の問題	133
Ⅳ	ケープタウン条約の諸制度	136
1	事後の制約としてのホワイトリスト・システム	136
2	事前の参加条件としての宣言システム	140
Ⅴ	結語	142

おわりに .....145

別表 条約と締約国数（2015年9月19日現在） 152

参考文献一覧 153

索 引 164